

ボルシチはウクライナ料理

ウクライナは長い間外国の支配を受けてきた事もあり、文化的にもロシアやポーランドの亜流と思われているが、それは違つ。実はウクライナこそが本家本元のものがたくさんあり、それはウクライナ人の誇りとなっている。

まず第一に、ロシア正教であるが、元々の始まりは988年にキエフ周辺を支配していたキエフ・ルーシ大公国のウラジミール大公がビザンチン皇帝の勧めによりウクライナ領であるクリミアにおいて洗礼を受けた事に始まる。モスクワがウクライナとロシアの正教会の中心となったのは、キエフが13世紀にタタールの攻撃により陥落した事による。事実、キエフの

19世紀初めといわれている。当時のロシアにとって、豊かな穀倉地帯であったウクライナの料理は憧れの的であった。

それからもう一つ、イースターエッグの発祥地もウクライナである。これは元々ウクライナにあった狩猟を行う際の卵に獲物を記録するという伝統が、キリスト教の復活のイメージ、すなわち固い卵が割れてキリストが蘇るというイメージと一緒に発展したものである。

現在、ロシアとウクライナは紛争状態にあるが、これがなぜ世界的に重要な問題かという点、この争いが欧州において最大の面積を持つ国と2番目の面積を持つ国の

「大使」発

ウクライナ便り



駐ウクライナ
日本大使

角 茂樹

ソフィア聖堂に残るモザイクは11世紀に作られたビザンチン様式による貴重なものである。

次に、コサックダンスというところ、これもまたロシアのダンスと思っっている人がいるが、これもまた誤りである。コサックとは15世紀後半にウクライナの中南部に発生した武装した自治集団の事である。その後、ロシアは一方でコサックを鎮圧しつつ、他方で国境防備や治安維持に使ったが、コサックの魂はウクライナ人に脈々と受け継がれている。

ボルシチ・スープについても、ウクライナの伝統料理である事はあまり知られていない。この料理がロシアに広がったのはせいぜい

対立だからである。さらに、ウクライナ人がロシアではなくEUとの統合を目指すとの選択を行った背景には、長い間の外国の支配にもかかわらず独自の言語、文化、伝統を保ってきたとのアイデンティティが育ってきた事がある。その結果、民主的で経済的にも豊かなEUとの統合こそ国の発展があるとの意思統一がこの国にできあがったのである。

現在、日本はウクライナに過去1年だけで18・4億もの支援を行い、ウクライナにとって最大の支援国となっているが、その支援がウクライナの発展に寄与する事を望んでいるのは私だけではないと考えるのである。

民間外交推進協会 (FEC)

<http://www.fec-ais.com/>